



# 御城印コースター誕生

玉城 高洋電機オリジナル

玉城町中桑の高洋電機（高祖雅規社長）が同町のシンボル「田丸城跡」の御城印をモチーフにしたアルミ製コースターを製作した。インテリアにもぴったりで、同町のふるさと納税の返礼品に採用された。高祖社長は「50年にわたり玉城町で

仕事をさせてもらってきた。地元結び付きがある製品で地域に貢献できればうれし」と話している。同社は1951年に鳥羽市に創業した高祖鉄工業所が前身。73年に玉城町に移り、高洋電機を設立した。タンクステンやモ

リブデンなどの難削材加工や外径0.2ミリのプラチナの丸棒に内径0.15ミリの穴をあける高精度で微細な加工技術が注目され、自動車、産業機器、錠前、半導体製造装置、医療機器など幅広い業界の部品加工を担っている。数年前から、地域に根ざした自社オリジナル製品の製作に着手。歴史や城が好きで技術品質本物の西尾渉課長が田丸城の御城印をモチーフにした製品を提案。御城印の写真デザインから、図面データを起こし、加工データに変換。円柱状のアルミ棒を薄くカットして、御城印の図柄の加工を施し、表面を処理。直径11

リブデンなどの難削材加工や外径0.2ミリのプラチナの丸棒に内径0.15ミリの穴をあける高精度で微細な加工技術が注目され、自動車、産業機器、錠前、半導体製造装置、医療機器など幅広い業界の部品加工を担っている。数年前から、地域に根ざした自社オリジナル製品の製作に着手。歴史や城が好きで技術品質本物の西尾渉課長が田丸城の御城印をモチーフにした製品を提案。御城印の写真デザインから、図面データを起こし、加工データに変換。円柱状のアルミ棒を薄くカットして、御城印の図柄の加工を施し、表面を処理。直径11

この日、どんと火に先ず、厚さ3ミリ、重さ約30gの「御城印コースター」が完成した写真。同製品を知った同町からラブコールを受け、町のふるさと納税の返礼品に採用された。

採火した種火はちようちんの中のろうそくに移して保存。同5時を待って境内に掘った穴に積み上げられたしめ縄などに着火し、同9時ごろまで続いた。

無事に神事を終えた井阪宮司は「日本古来の火鑽具を用いて採火している神社は少ないのでは。受け継がれてきた貴重な神事を後世に伝えたい」と話した。

【大原隆】

御城印コースターは、黒、ピンク、緑、黄、水色の5色。同町ふるさと納税のほか、同社でも販売している。問い合わせは同社（0596・58・2121）へ。【小沢由紀】

火のための種火は「火鑽具を用いて、古式にとり木の板と棒をこすり合わせて採火した。河邊七種神社は、足利時代の創立と伝えられ、氏子は約800人。井阪淳一宮司によると、節分祭は、祭典と餅つき、豆まきが行われる。しかし、昨年と今年は新型コロナの感染防止のため、祭典とどんと火だけにしたという。